

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200066		
法人名	社会福祉法人姫戸ひかり会		
事業所名	グループホームひかりの園ビハール館		
所在地	熊本県上天草市松島町今泉1004-1		
自己評価作成日	令和2年11月7日	評価結果市町村受理日	令和3年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和2年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念「ビハール」＝安らぎの場所の実現を目指しています。想い通りにならない人生のなかでどのような状態になろうとも安心してありのままの自分でいられる生活を目指しています。私たちは、老病死の苦しみや悩みを直視し、自らの問題として皆さんと共に歩みたいのです。そして、人としての思いやりや優しさ、生きることの厳しさ、悲しみ、そして喜びをみほとけの大悲のひかりの中に分かち合いたいと思います。かけがえのない一人の存在として受け入れられる人と人が自然に行われる生活の実現を願っています。また、一人一人の力を引き出した介助が出来るよう、「RX組の研修」や「動き出しは当事者からの研修」などへ参加しています。施設内での研修を取り入れたり、外部研修や講師を招いて、今まで培って来られた人生経験を大切にしたいその人らしさを目指し、ご入居者、ご家族から信頼されるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームを開設して16年を経過した今、ビハール(安らぎの場所)という理念に込められた思いへの職員の思索が深まっている。職員は利用者の自己決定を大切にしており、利用者の送っている主体的な生活に、理念に沿った支援の実践が見られた。利用者は職員と一緒に献立を考え、買い物や料理など食事作りの一連の作業に職員のサポートを受けて参加している。菜園の採れたて野菜を用いた郷土料理や行事食、季節感のある料理はバリエーションに富んでいる。時には趣きを変えて四季を感じながら園庭で食事するなど、食を楽しむ支援が豊かである。また、利用者の持てる力を引き出す具体的な事例を基に介護技術の研修を行い、日々のケアで実践している。利用者との対話を楽しみながらの介護は温もりがあり、利用者の満足度を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき、入居者の尊厳を大切に「その人がその人らしく生活が送れるよう」支援する。入居者、家族、地域とのより深い信頼関係が構築できるよう、ホームでも行事などを行い、職員間で共有し、実践している。	毎年度初めに、法人の全体会で理念を共有している。グループホーム会議でもケアを振り返り、ホームが利用者の自己決定を大切に、安らぎの場になるよう支援している。利用者の主体的な生活から、理念に沿った実践が図られていることが伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域食堂ふえすた等の行事を開催し、地域の方々に参加して頂いており交流が続いている。また、地域の行事、馴染みの美容室、買い物に出掛ける事で関係が続けられるようにしている。	毎年法人が開催する「地域食堂ふえすた」は、地域住民の出店や子どもの太鼓演奏の披露などがあり、ともに楽しむ機会として定着している。また、利用者の出身地域の秋祭りや五橋祭、買い物などに積極的に出かけ、入居前と変わらない交流を続けられるよう支援している。今年度はコロナ禍の中、地域での買い物や地域行事等への参加は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	立地条件としては、地域住民が気軽に立ち寄ってもらえる環境ではないが、地域の保育園や小学校などに来て頂くことで、知って頂ける場をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、入居者の状況、外出、外泊等の実績や様々な活動及び日常の様子を報告を行い、家族や行政、民生委員の方々に意見を伺い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議の進行役は、委員に問題提起をし、双方向的な会議になるよう配慮している。「法改正について」「インフルエンザについて」など、時期に即した委員に興味関心のあるテーマを取り上げ、有意義な会議になるように努めている。また、委員からの外出先の情報提供などを実践につなげ、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は新型コロナウイルス感染防止のため、利用者の活動内容などを文書で報告している。委員からの意見提案を得るとさらに良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型担当者、地区民生委員に運営推進会議に参加して頂き、ケアサービスや取り組みの実践を報告している。また、施設での行事の際には地区民生員、地域住民、家族の参加があり、協力関係が続けられるよう取り組んでいる。	市との連携は、同一敷地内にある母体の特養が窓口となっている。市に相談したり、市から相談を受けたり、お互いに意見が言いやすく協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画として身体拘束防止の研修を実施しており、身体拘束防止の基本的な理解と対応方法について学ぶ機会を設け、全職員へマニュアルを配布し、意識向上に努めている。また、新人職員へは年2回の研修を実施している。	毎年、身体拘束防止の研修会を年間計画に組み入れ、繰り返し研修することで職員の意識の浸透を図っている。昼間は玄関に施錠しておらず、利用者は自由に出入りし、朝から庭の掃除をする、陽を浴びるなど気分転換を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画として高齢者虐待防止の研修を実施しており、高齢者虐待防止の基本的な理解と対応方法について学ぶ機会を設け、全職員へマニュアルを配布し、意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間計画として権利擁護の研修を実施しており、管理者より「権利擁護と命の尊厳」について学ぶ機会を設け、全職員へマニュアルを配布し、意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、十分な説明を行い同意を得ており、疑問や不安に対して十分な説明を行い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情窓口の担当職員を明確にしており、入居者及び家族にその利用方法を文章と口頭で伝えている。ホーム内外の行事など入居者と家族が参加され、職員との交流の場を設け、関係作りを行い、運営推進会議などで様々な意見が出やすいようアプローチしている。	苦情相談受付の体制を重要事項説明書に明記し、利用者・家族に入居時に説明している。受け付けた内容を記録し、グループホーム会議で報告し情報を共有している。意見も苦情としてとらえ対応するなど、真摯に取り組む姿勢が感じられた。コロナ禍のため、利用者の状況報告をさらにこまめに行い、家族の安心につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はグループホーム会議の中で職員が意見を述べられる場を設けている。また、管理者と職員とが面談する機会もあり、意見を反映させている。	グループホーム会議は全員発言を原則として、多様な意見提案を聞く機会となっている。意見や提案は利用者本位になっているかを重視し検討している。利用者の〇〇へ行きたいという声を職員が拾って提案し、外出支援につなげている。	グループホーム会議での意見交換や情報交換は学びの場であり、気付きを深める良い機会と考える。現在中止をしている会議が早期に再開できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入しており、チャレンジシート（目標管理）を使用し、各自の目標に向けて、上司と相談しながら取り組める環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、年間事業計画に沿って、研修を実施しており、外部への研修や外部講師を招いての研修等を取り入れ、入居者への暮らしの支援などについて実践的な研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係事業所の開催する研修への参加の場があり、お年寄りの視点に立ち「誰のため何のため」という意識を持ち、現場実践の見直しに取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時、本人からは認知症による不安な事や要望を直接聞き取ることは困難なケースが多いので、日常的な会話の中から表情からくみ取り、入居時の移り替わることへの不安が少しでも軽減出来るよう歓迎会の開催や家族への面会の依頼を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際に入居者の生活されている状況を見て頂き、不明や不安があれば、その都度説明を行う。また、入居後でも面会などで不安や要望を聞き取りながら、関係を気づいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族関係、地域との関り現在利用されている在宅サービス等の状況を踏まえた上で本当に必要とされているサービスは何かを見極め、入居のみではなく、在宅で過ごせる可能性を視野に入れ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や野菜づくりなど入居者へ教えて頂く環境を作り、暮らしの中では昔からの伝統行事（正月、お盆、彼岸など）や郷土料理など様々な知恵を頂きながら生活を共にしている。また、ホーム以外の行事として、地域行事の参加や入居者自治会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき、訪問時には心地よく過ごせるよう積極的に取り組んでいる。和室やリビング、居室へ案内し、家族だけで過ごせる時間を大切にしている。また、家族との連携を取りながら、外出支援や自宅への帰省なども行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等として地域の人たちが遊びに来られたり、立ち寄って頂けるよう取り組んでいる。また、同一敷地内で他のサービスを利用されている方々との出会いや友人、知人、地域住民との関係が途切れないよう努めている。	お盆や正月、法事や買い物など、家族の協力を得て、外泊や外出をし絆を深めている。また、同一敷地内のデイサービスやショートステイ利用の友人を訪ね、関係が途切れないよう支援している。ホームへの訪問者が再訪したいと思えるような雰囲気作りを心掛けて、なじみの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の助け合う気持ちが自然な形で見受けられる。その会話や行動をさりげない形でサポートできるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も見舞いに行ったり、退居された家族の来館もあり、契約終了後もお互いに行き来しやすい雰囲気づくりに心掛け、継続的な関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の家族構成、職歴、生活歴を把握しその人の思いを大切にしており、会話の中から要望をくみ取り、どの場面においてもその人のペースでその人らしく生活して頂けるようリビングプランを作成し支援している。	日常会話の中で利用者の思いの把握に努めている。生姜シップの時間などは利用者と一緒に向き合うよい機会である。また、言葉には出されなくても、よく家族の写真を見ていたり、家族の話をする時などは家族に会いたいサインと捉え、利用者寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしや尊厳を支えるため、本人にとって大切な経験や出来事などを含む生活歴を知ることが大切な事であり、家族本人との日々の会話の中から出来るだけ多くの事を知ることが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常の状態を把握し、異常の早期発見、早期対応に努めている。毎日のバイタル測定で日々の変化に気を付けている。変化については、ケース記録に記載し、申し送りを通じて全職員へ伝達することで状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりとじっくり向き合い、その人らしい生活を送ることが出来るよう本人、家族に思いを聞き、介護計画を作成している。また、担当者会議を開催し、必要があれば見直しをしている。	計画作成担当者は利用者の日常の観察やほかの職員の意見、記録などから詳細に情報を収集し、6か月に1回モニタリングとアセスメントを行っている。利用者の心身の変化に応じてプランを見直し、現状に即したプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については、ケース記録に記録している。それを基にスタッフの意見や思いを計画作成に取り入れるようにしている。状態変化があった場合は、ケア内容の変更を話し合いながら、職員間で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの入居者の住まいとして、既存に捉われないよう、地域行事等へ参加しており、在宅での暮らしの継続として、今までの関係が継続出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区民生委員に運営推進会議に参加して頂いたり、地域の催しなどに出掛け、地域交流を図っている。また、入居者自治会の活動に参加したり、意欲的な生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関を受診し、日頃より状態の変化に対しては報告を行い、急変時、夜間帯も迅速に対応している。また、医療機関へ受診することで、医師との連携が図りやすくなった。	利用者・家族の希望を尊重したかかりつけ医となっている。現在はコロナ禍のために往診で対応している。同じ敷地内にある母体特養の看護師と24時間対応体制を整え、休日や夜間などの急変時には特養看護師に連絡し適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化や異常発生時に相談できるよう、特養との医療連携体制を図り、指示や支援を受けている。また、必要に応じては、関係医療機関の医師に相談にのって頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も医療機関へ足を運び、医師、看護師などと話をして状態把握に努めている。必要な時には、家族への同席も依頼し、施設側の思いや方向性を伝え、安心して頂けるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の健康状態について、随時または面会時に家族へ連絡している。日々の様子についても、面会などの時に細かく伝え、家族の意向があれば聞き取り対応している。	看取りの体制を整えており、利用者・家族の要望に添い看取りを行う方針である。終末期に入り、家族・ホーム・医師と相談の結果、医療機関や特養への移行を希望する家族が多い。移行後もホームは移行先への面会を継続し、利用者・家族の安心につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修として、安全管理の研修があり、職員が適切な対応が出来るようにしている。また、マニュアルを配布し意識向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災時に迅速に的確な判断や対応が出来るよう年2回の防災訓練や防災体制研修を行っている。また、防災訓練には、家族も参加して頂いている。	定期的な訓練を法人内の特養などと合同で行っている。新人職員は5月の防災訓練に参加し、先輩職員と一緒に避難の流れや避難経路・避難場所など確認している。台風接近の情報から、利用者の安全確保や勤務に支障がないよう自主的に待機した職員もみられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにリビングプランを作成し共有している。また、年間事業計画に沿って、プライバシーの研修を行っている。	プライバシーの研修を年間計画に組み入れ実施している。目上の人に対する尊敬の念を持ち、相手を傷つける言葉や馴れ馴れしい言葉使いなどにならないように心掛けている。排泄や入浴介助などの際は、同性介助や遠目に見守るなど、プライバシーや羞恥心に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意向や思いを大切にしている。買い物や外食などを取り入れ自分で決められたり、選択できる場をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の行動や会話のスピードに合わせて対応している。訴えがあった場合はゆっくり時間をかけ、話を聞き取り、納得されるまで向き合い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床や入浴時など衣類を一緒に選び、その時に着たい物を選んで頂き、個性を大切にしている。希望に応じて、行きつけの美容室へ出掛けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に買いも煮に出掛け、旬の食材を取り入れている。また一緒に料理し、好きな献立を調理している。	利用者と職員は献立を考え、買い物や料理も一緒に行っている。無塩ずしなどの郷土料理をつくったり、庭でサンマを焼いたり、菜園でとれた野菜を使ったりと、食事を楽しむ支援が多様にある。訪問当日の食事も、利用者と一緒に作った、見た目にも食欲をそそる季節感のある料理が提供されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録を記載し把握している。食事量などは少ない場合は、個別の対応を行っている。また、摂取状況に合わせて考慮し、多種多様に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の衛生を日常的に支援している。食後は口腔ケアを行い、夜間は入れ歯洗浄剤を使用している。また、必要に応じて、歯科往診や指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、自立した排泄が出来るよう、行動を察知してさりげない誘導をしている。また、排泄チェック表に記録し、把握に努めている。	トイレでの排泄を基本としており、利用者一人ひとりに適切な排泄用品を選択し、声掛け誘導を行っている。疾病によって利用者の負担にならないように支援する細かな配慮が見られた。トイレに取り付けたファンレストテーブルにつかまることで、立位や坐位が安定し排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事献立を配慮しながら、夕食には玄米ご飯を食べて頂いている。また、日常生活の中で散歩などを取り入れ体を動かす機会を作り、自然に排便が出るように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	木製の浴槽を使用して、回数や時間等希望に応じて、ゆっくり入って頂いている。また、気持ちよくお風呂に入って頂けるよう介護技術の研修を受ける機会がある。	入浴は安心して、ゆっくり浴槽につかることを大切にしている。介護技術の研修で学んだことを生かし、利用者の力を引き出す支援を行い、さらに満足度を高めている。菖蒲湯・ゆず湯など、利用者になじみのある伝統行事を続け喜ばれている。また、つつじの花びらを浮かべるなど、入浴を楽しむ支援もみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、情報共有することで安眠に向けた支援が来ている。また入眠の時間も個々で異なり、寝具も使い慣れたものを持ち来られる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者が使用する服薬の目的や副作用などを理解しており、入居者一人一人が医師の指示通りに服薬が出来るよう支援し、症状の変化を確認している。また、必要に応じては、医療連携の看護師より指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの役割が自然発生的に生じるよう支援しつつ、常に自信が高まるような声掛けをしている。入居者の出来る事を認め、積極的に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人手と協力しながら出かけられるように支援している	自由に外出の希望を伝えられるような雰囲気づくりと入居者の出掛けたい場所を会話の中からくみ取り、それらを立案し外出の機会をつくっている。また、家族の協力を得ながら外出や外泊の機会がある。	利用者は週1回巡回バスで買い物に出かけ、自分で選んで買う楽しみがある。また、恵まれた自然環境を生かし、広い庭でホームの桜を見ながら花見の食事会や菜園や花の手入れなど、外気に触れる機会が多い。敷地内にある特養の仏間にお参りするのも日課になっている。家族の協力を得て外出や外泊をするなど個別の対応も見られた。	コロナが落ち着いた際は従来のような多様な外出支援を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望により、日常の金銭管理をして頂いている。金銭管理が難しい方においても、買い物に出掛けられる時には財布を持って頂き、購入された分の支払いをして頂くなど金銭管理能力維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が届くと、返信の援助や電話使用時の援助など日常的に利用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気有しており、備品等についても家庭的なものを揃えている。入居者が過ごしやすいよう、和室やリビングなど自由に過ごせる場所を確保している。また、季節感が出るよう花を飾ったりしている。	広々としたリビングは明るく清潔である。利用者が生けた花や観賞魚が利用者の心を潤している。エプロン姿で料理している人、新聞・カタログを見ている人、ウッドデッキで職員と談笑している人など、好きなところで自由に過ごしている光景に充実した生活が感じられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になったり、気の合った入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。(和室、リビング、居室など)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ自宅で使い慣れた馴染みの物の持ち込みを依頼している。一部の方には自宅で使用されていたものを持ち込み環境づくりを行っている。また、個別に応じて介護用品を適切に配置している。	家族が持参するおやつを入れる冷蔵庫のある部屋、自分の好きな番組をいつでも楽しむテレビがある部屋、観葉植物や花が置かれた部屋等々、それぞれの利用者が落ち着ける部屋づくりとなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのファンレスとテーブルや浴室の構造や共用の手洗いや調理台の高さなど考慮している。また、屋外にも出やすいよう、手すりを設置している。		